

2024年 春季参加報告書

参加プログラム：ディーキン大学

参加時の学年：2年、学部：社会、学科：メディア社会

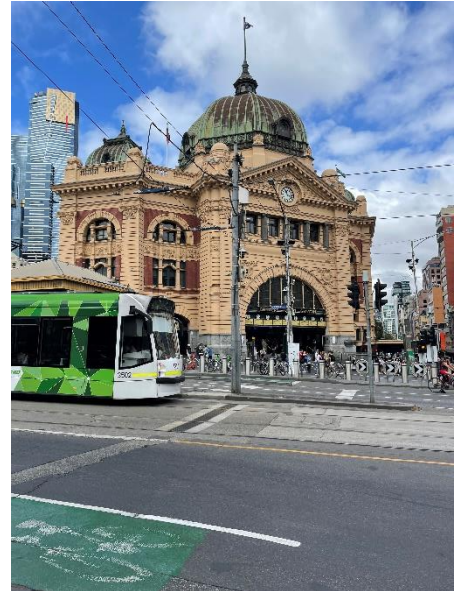
私の留学の目的は英語に慣れることと、海外で生活する経験をする事だった。私は海外に行ったことがなかったため、一ヶ月間外国で生活することは大きな挑戦であり、英語のみを使って生活することで英語力の向上、また帰国後も英語を勉強する意欲を向上させるために留学を決断した。

留学生活中はルームメイトが日本人であったこと、学校でもほとんどの人が日本人だったことから想像以上に日本語を使う機会が多かった。しかし授業はもちろん英語で進められ、授業中のワークでは自分の力で英語を話す練習が多かったため、スピーキング力が上がったと感じている。現地に到着した当初は最初の言葉から詰まることが多く、何を言ったら良いかわからないという状態だった。しかし、次第に最初の言葉が出るようになり、次に言いたいことが英語で思いつくようになった。また先生がよく使う定型文に聞き慣れたため、自分もそれを使ってスムーズに話せるようになった。

またリスニング力も向上したと感じている。ホームステイ先に到着して家でのルールをホストマザーから聞いたときは、聞き取れない部分が多かった。しかし帰国する前には、ホストファミリーが話していることを完璧とまではいかなくとも聞き取れたり、わからなくても何について話しているのか理解できるようになった。また、誰かが英語で話している途中で次にどんな言葉が来るのか予想できるようになり、話の途中でも相手がどのようなことを話そうとしているのか推測できるようになった。

学校生活の中で特に印象に残っていることは、多くの先生が間違えても大丈夫だと言ってくれたことだ。最終週のプレゼンテーションの前には、もし自分の中では上手いかなかったとしても心の中は他人には見えないのだから大丈夫だと教えてくれた先生もいた。外国の先生は間違えることに大して寛容で、ミスを恐れる必要はないということをたくさん教えてくれた。

また滞在中は自分の中で小さな目標を立てて実行するようにしていた。例えばスターバックスに行く、学校の図書館を利用する、場所があればダンスの練習をするなどだ。私は日本でKPOPカバーダンスサークルに所属しており、ダンスが趣味である。そのため滞在中も場所があれば練習したいと思っていた。現地に到着してから、KPOPのレッスンが行われているダンススタジオが多くあることを知り、一人でダンスレッスンを受けに行った。想像以上に楽しく、英語で振りを教わるのができたこと、0から一人で成し遂げられたことがうれしく自信がついたため、滞在中に目標を立ててそれにチャレンジするということはとても良い経験だったと考えている。さらに、毎日日記をつけるようにしていた。些細なことだとしても、初めての海外で驚いたことや一日の中で印象に残ったことは今後忘れないようにアプリを使って文章に残し、その日の写真や動画も記録に残した。普段から写真を撮る習慣がありません私にとって、毎日写真や動画を撮ることも目標の一つであった。日記の総文字数は約一万字にもなり、この文章や写真



などは今後オーストラリアにいたときの体験を語る際に役立つと思うし、文字にしたことで鮮明に自分の記憶に残るはずだと考えている。

今回の一ヶ月間の滞在中では毎日が新鮮で、様々な経験を積み、英語力を向上させることができたと感じている。また英語力だけでなく、考え方も変化があり様々な面で成長できた。英語力に関してはまだ不十分など多いが、英語を話したり聞いたりすることに対する恐れが消え、英語がもっと話せるようになりたいという意欲も向上した。そのため、日本でも英語を勉強し続けて道で外国人が困っていたらすぐに助けられるようになりたい、アプリなどを通じて外国人とコミュニケーションを取ったりしてみたいと考えている。